

平成29年度 第2回行財政改革推進委員会 議事録（要旨）

- 1 日 時 平成29年7月12日（水） 18：30～20：38
- 2 場 所 旭川市総合庁舎2階 秘書課第2応接室
- 3 出席者 秋山委員，浅沼委員，梅津委員，川邊委員，篠原委員，増田委員
（事務局）総務部行政改革課 田澤部長，小島課長，松田主幹，松浦課長補佐，
青葉主査
（所管課）福祉保険部介護高齢課 菅原課長，平山課長補佐，貞森主査，鈴木，
藤井

4 公開・非公開の別 公開

5 会議資料

- (1) 次第
- (2) （資料1）（行政評価シート）高齢者バス料金助成費
- (3) （資料2）（行政評価シート）高齢者等屋根雪下ろし事業費
- (4) （資料3）（行政評価シート）高齢者生きがい対策費
- (5) （資料4）（行政評価シート）ファミリーサポートセンター等運営費

6 議事要旨

●高齢者バス料金助成費

（委員）

交付率34%について，自動車の保有状況や対象者の心身の状況などの調査を行っているのか。そもそも必要ない人と使えない人の割合がわからないと，34%が高いのか低いのかの評価ができない。

（所管課）

詳細は把握していないが，65歳以上で要介護認定を受けている人が2万2千人程度なので，利用できる方の半数程度が交付を受けていることになる。可能な範囲で，ニーズの把握に努めていきたい。

（委員）

団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題を考えると必要な事業だと思う。

（所管課）

地域で支え合う体制作りが必要であり，財源を含めて，長期的な視野で検討していきたい。

（委員）

寿バスカードの手数料は2千円であるが，発行費用はどの程度かかっているのか。

（所管課）

1枚当たり三十数円プラス印刷代で40～50円，その他郵便局への委託料などで220万円程度かかっている。

（委員）

定期券のようにバスの営業所で受け取るようにすれば，郵便局への委託料が必要なくなるのではないかと。ICカードの導入についてはどうか。

(所管課)

I Cカードの導入についてバス事業者と協議したことがあるが、1枚あたりカードだけで六百数十円かかるとの見積もりであった。現在の20倍程度の費用がかかる。

(委員)

I Cカード自体はデータの更新が可能だし、デポジットで500円で借りていることになる。

(所管課)

バス事業者間で共通で使えるようにできることが課題である。そこがクリアできれば、チャージができたたり、長く使えるメリットもあるので、事業者の協力を得ながら検討したい。

(委員)

メール便で送るのは問題があるのか。

(所管課)

高齢者にとっては、近くの郵便局で受け取ることができるほうが利便性が高いとの判断である。従前は市の窓口で交付手続をしていた。

(委員)

事業目的を確認したい。バスの乗車に対する援助が、健康の維持、増進につながるというのはどういうことか？

(所管課)

外出の機会を増やすこと、引きこもりを防止すること、日常生活を外に広げることで健康を維持することである。

(委員)

そうであれば、交付要件に網をかけないのはいかがでしょうか。

年齢だけで利用できるのはおかしい。車の免許の有無も関係ない。

むしろ元気じゃない人こそ必要な事業ではないか。

市の支出2億円を減らしたいのか。

(所管課)

外出の機会を増やすことで介護予防にもつながる。そこを第一の目的にしている。

予算額については、担当課としては減らしたくないと考えている。

平成16年度の改正時に所得制限を設けようとしたが、議会質疑を通じ、年齢制限だけとなった経緯がある。

また、事業の目的からして、この事業がなくても外出できる方も対象としていることについては検討する必要はある。

●高齢者等屋根雪下ろし事業費

(委員)

利用状況はほとんど変化ないのか。

(所管課)

継続して利用している方が多いが、年度に世帯状況の変化により入れ替わりがあり、結果として横ばいになっている。

(委員)

町内会ではボランティアで見守り活動や除雪をしているところもある。

民間レベルでボランティアを活用することはできないか。

(所管課)

学生や民間企業が、ボランティアで除雪を行っているという報道もある。

元気な高齢者など住民主体でサービスを提供するような地域づくりができるようになればよいと思う。

(委員)

申請手続が大変なように感じる。

(所管課)

申請書は1枚であり、民生委員が意見欄に記入するなど協力してもらっている。

(委員)

空き家の雪下ろしはどうなっているのか。20年ぐらい経つと、高齢者住宅と同じくらい空き家が出てくる可能性があるのでは、そこを同時に考える必要もあると思う。

(所管課)

基本的には所有者が行うことになるが、建築指導課を中心として、ちょうど内外でこれから検討されていくと思う。

(委員)

実際に雪下ろしはどのようにお願いするのか。

発注方法を工夫してルートを効率化できたら事業費を抑えることができるのではないか。

地区毎に取りまとめて発注するとか。

(所管課)

業者への発注は、利用者自らが行うことになる。利用者のタイミングで発注している。

利用券は15,000円なので、1回ないしは2回分である。

雪が多く降った日など、発注時期は重なっているかもしれない。

(委員)

支出の部の人件費について、事務作業は申請を受けて交付するだけなのか。

(所管課)

それ以外に審査事務があり時間がかかる。

(委員)

9か月分の人件費がかかっており、事務を外注してはどうか。

(所管課)

個人情報を取り扱うので難しい部分があると思うが、どのようなことができるか検討したい。

(委員)

利用率は70%~90%であり、15,000円以内で収まっているのか。

(所管課)

実態として使い切れなくて余ったものである。

(委員)

助成券の発行手数料を削減できないか。

(所管課)

助成券の印刷コストや事務作業に時間がかかっていることから、どのような見直しが可能か検討したい。

(委員)

一連の作業でどれくらいの費用がかかるのか。

(所管課)

毎年、50社程度の業者さんから参考見積りをもらっている。

家の形状によるが、雪を下ろすだけであれば8,000円～15,000円であり、プラス排雪の費用がかかる。

●高齢者生きがい対策費

(委員)

福祉施策はすべて必要という見方もできる。

敬老会については、所得制限もなく77歳以上の方全員に1,000円を支給しているのか。

(所管課)

敬老会を実施するに当たって、対象者×1,000円を実施団体に交付している。

あくまで敬老会を実施するための費用の一部を助成する事業である。

来られない方には記念品を渡していると聞いている。

(委員)

運動会や文化祭は一般市民も見ることができるのか。

(所管課)

運動会は一般公開はしていないが、来場された方を拒むことはない。

大雪アリーナで1,000人程度が参加して実施している。

文化祭は市民文化会館で秋に開催しており、4日間公開している。

(委員)

市民周知をどのように行っているのか。

(所管課)

運動会は各老人クラブに案内している。

文化祭は市民こうほう7月号又は8月号でお知らせしている。

(委員)

運動会について、食べマルシェのように出店料を徴収してはどうか。そうすると、市民のイベント化するんじゃないか。

(委員)

敬老会の実施について、基金がなくなったらどうなるのか。

(所管課)

今年度、見直しを検討することにしており、実施主体の意見も伺いたい。

地域会館で敬老会を実施しているところが多いが、担い手も大変であるとの声も聞いている。担い手の方も敬老会の対象者になってきている。

記念品を配付しているだけのところもあり、市の支援の在り方を検討していきたい。

(委員)

敬老会全体に占める4,700万円の割合はどうなっているのか。

(所管課)

平成28年度決算見込では、敬老会負担金が4,547万円、敬老会全体の支出額は6,226万円なので73%を占めている。

(委員)

負担割合が73%は出し過ぎじゃないかと思う。金額の削減を検討してほしい。繰越金がある団体数はどの程度あるのか。

(所管課)

2~3か所ある。

(委員)

繰越金の額が大きい団体には負担金を出さないようにすべきと思う。見直しを予定されているようなので、検討いただきたい。

(所管課)

単価、対象年齢、開催方法の3つについて、どうあるべきなのか検討していきたい。

●ファミリーサポートセンター等運営費

(委員)

市の支出は社会福祉協議会への委託料とのことだが、手数料収入の総額はわかるか。

(所管課)

手数料は依頼会員から提供会員に直接渡しており、社会福祉協議会は関わっていないのでわからない。

(委員)

738万円の委託料の内訳はどうなっているのか。

(所管課)

人件費が大部分を占めている。

(委員)

委託料の金額は消費税増税前と変わっていないが、社会福祉協議会も消費税の納税義務があるはずなので、消費税が増額された分、実質稼働量が減っているのではないか。そこは配慮してもよいと思う。

(委員)

シルバー人材センターよりも安いのか。

(所管課)

社会福祉協議会のほうが若干安いと思う。

食事の準備などは訪問介護サービスで対応できるが、この事業を使うことにより、介護保険にかかる費用を減らすことができる。

(委員)

提供会員を増やす取組を行っているのか。

(所管課)

社会福祉協議会の広報誌による周知や関係団体をお願いしている。老人クラブにも声かけし、元気な高齢者を活用していきたい。

(委員)

大学の若い方にも協力していただきたい。

(委員)

提供会員が少なくなるのであれば、それを見越した形態も模索してほしい。

●全体の総括

(委員)

高齢者バス料金助成費については、対象者の見直しや交付事務の効率化についての意見もあったがどうか。

(委員)

制度を維持していくためには、利用料金を上げることも必要と思う。

(委員)

今後も制度を維持していくためには、見直すことが必要であることから、「B 見直し」としたい。

高齢者等屋根雪下ろし事業費については、事務処理に時間を要するなど人件費や補助金の交付方法の見直しを検討する必要があることから、「B 見直し」としたい。

高齢者生きがい対策費については、基金が枯渇することを踏まえると、補助が多過ぎることも考えられるので、補助金の在り方を検討する必要がある、「B 見直し」としたい。

ファミリーサポートセンター等運営費は、基本的にはさらに推進すべきと思う。